



●初めにオランダの「アールスメール花市場」を視察。
 この市場は、世界最大規模の花卉卸売市場であり、約100万㎡の屋内施設に1800名が従事しており、その規模に驚嘆したところですが、また、市場内はオートメーション化が



海外農業事情調査に参加して
 那須町農業委員会
 会長 今 耕一



地域全戸参加型の集落組織の設定について
 農業委員 薄 井正志

●次にロッテルダム近郊にあるトマト栽培農園「ソリコ」を視察。
 農園全体で10haの敷地において年間8000万個のトマトを供給しており、低農薬や天敵農法を使用するとともに温室内は天然ガスを燃料としたコージェネレーションを導入し、環境にやさしい取り組みがなされておりました。
 ●続いて、ロッテルダム近郊にある酪農家「ファンヴェース家」を視察。
 ファンヴェース家は、乳牛60頭を飼育しており自動搾乳機を使用して年間32万ℓを生産し、牛乳の出荷及びチーズ製造を行なっている酪農家です。特にチーズ製品は国内で2度のグランプリを受賞しております。
 ●ドイツにおいては、ミュンヘンの文化施設などを視察してまいりました。
 視察を行ない、各施設ともに品質管理、環境負荷の低減、経営合理化に対する意識が大変強く、今後の町内農業経営に参考になりました。



平成27年11月5日、宇都宮市で開催された平成27年度第2回農業委員研修会に参加し、農事組合法人ファーム・おだ 組合長理事吉弘昌昭氏による講義を受けました。
 同農事組合法人は、東広島市河内町小田地区、標高280mの13集落で形成された人口606人、世帯数233戸、農家戸数146戸の中山間地域にある集落営農法人です。
 小田地区の少子・高齢化の進展により小田小学校が閉校になるなど過疎化を懸念した地域住民が、自分たちの地域は自分たちの手で守るとして平成15年に住民自治組織「共和の郷・おだ」を設立し小さな役場組織

のようなグループが結成された。そして、先祖伝来の農地を守り若い人たちが魅力を感じて後を継いでくれるよう平成17年に小学校区を一つの農場として「地域全戸参加型集落営農法人」を立ち上げた。圃場整備は昭和62年に殆ど完了しているとのこと。
 同法人は、構成員154名、経営規模103ha、水稲・大豆・蕎麦・野菜のほか、小田産米粉パン工房の6次産業にも取り組んでいる。さらに直売所も設け「共和の郷・おだ」が経営を担うなど、農事組合法人・自治組織が一体となり地域活性化に取り組んでいる。ファームおだやパン工房で働きたい人も増えているとのことでした。
 同法人の平成24年度の実績は、事業収支158百万円、農業所得60百万円を確保、効率化と収益向上が図られ集落法人に対する組合員の評価は、94%が参加して良かったとのこと。
 人口減少や農家の担い手不足が進展する中、地域一体となる集落組織の取り組みが農村集落維持に機能を発揮していると感じた研修でありました。